

6月15日 メッセージ

聖書：エフェソの信徒への手紙 1：3 - 14

「キリストにおいて」

毎年、学生たちに三位一体のことを話すと、「三つのものを一つにすること」だと思っていた人がほとんどです。もっとも、それも仕方の無いことでしょう。「政官財の三位一体の改革」などというスローガンを総務省が発表したのがもう20年以上前のこと。今でも全国に流れるニュースやビジネスの世界において、間違った意味で使われていますが、間違っていることにさえ気づいていないからです。

改めて言うまでもないことですが、三位一体とは、「一人の神が三つの位格（ヒュポスタシス）で現れる」ことです。「父なる神」、「子なるキリスト」、「聖霊なる神」の三つが、唯一の神の中で互いに独立して存在しながら、かつ本質を共有しているということです。

ではなぜ、神は私たちにその三つの位格で現れてくださるのでしょうか。「キリスト教は唯一神教なのだから、神以外を神とする必要はないのではないか」と、キリスト教を知らない人たちが言うかもしれません。ですが、私たちにはこの神の三つの位格、三つの姿が必要なのです。

私たちはすでにイエス・キリストがおられるこの世界に生きているから、神を身近に感じているかもしれません。けれどもそれは決して一般的なことではありませんでした。

預言者サムエルを主が呼ばれた時、最初、それが神の声だとは気づきませんでした（「主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、『ここにいます』と答えて、エリのもとに走って行き、……」サムエル記上3:4-5）。それくらい遠い存在だったのです。もちろん、サムエルもイザヤもエレミヤも、その他大勢の預言者たちも、神の言葉を聞いて応える人になっていきます。預言者として神に立てられることを望み、「わたしを遣わしてください」と願います（「わたしは主の御声を聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』わたしは言った。『わたしがここにあります。わたしを遣わしてください。』」イザヤ書6:8）。

聖書が伝える彼らの姿は、周囲にどれほど棹さされようとも諦めず、主に仕え通す強い背中でしょう。神はそのように特別な者だけでなく、全ての者を招く決意をされます。

それが、独り子イエス・キリストを世に送られたことの最も大切な意味です。人間のすぐ隣で、神の愛を説き、神の思いを実践するイエスの姿を通して、神は全ての者にその愛を、その思いを明らかにされました。遠い存在だと思っていた神が、「天の父」と呼ぶことができるような存在として現れてくださったのです（「だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、……』」マタイによる福音書6:9）。

キリストにおいて、キリストを通してその喜びの知らせを、神の真の思いを知った弟子たちは、厳しい環境の中でも神の思いを、神の言葉を、イエスの行いを伝える人へと変えられていました（「わたしは柔軟で謙遜な者だから、わたしの輻を負い、わたしに学びなさい。」マタイによる福音書11:29）。決意も新たに立ち上がった弟子たちは、「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」（マタイによる福音書28:19）との言葉に応える一人となっていきます。

とはいって、弟子たちも一人の人間です。その思いが揺らいだり、躊躇したりすることもあったでしょう。時には自分一人の力では立ち上がれないと思うようなこともあったかもしれません。そのような一人ひとりを励ますように、手紙は語りかけます。

「あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。」（エフェソの信徒への手紙1:13）

あなたがたもキリストにおいて、神の思いを聞いたではないか。救いの喜びを共に味わったではないか。そして、何よりも、一人ひとりには聖霊が注がれているではないか、と。「力強い王、裁きを愛し、公平を固く定め／ヤコブに対する裁きと恵みの御業を／御自ら、成し遂げられる」（詩編99:4）と歌われる神が、天から呼びかけ（父なる神）、身近にあって福音を伝え（子なるキリスト）、あなたがたの内側から一人ひとりを支えて（聖霊なる神）おられます。

この神の揺るがない事実の中で、神の三位一体の中で私たちは、神の道具として、平和の道具として立てられています。預言者たちのように、またイエスの弟子たちのように、そして数多おられる信仰の先達たちのように、私たちもこの世界に喜びの知らせを、平和を伝える一人となっていきたいと願うのです。

